



森林と人を 生かす知恵 148

森林・林業のこれからの可能性を考える

林業と〇〇の組み合わせで可能性は無限大

岐阜県立森林文化アカデミー 准教授 ● 新津 裕

● 緑豊かな岐阜県

この森林のたよりを目にしていく方々にとっては言わずもがな、岐阜県は国内でも森林率第二位の森林大国です。日本全国の森林面積が67%である事から比較してもより森林が豊かなことが伺えます。

濃尾平野の山が近くに無い地域の方や住宅街に住む方にとっては森林という言葉があまり身近に感じないかもしれませんが、河畔林や社寺林・公園・街路樹など案外近くに森があるものです。

● 過去の林業の印象

私は岐阜県立森林文化アカデミーで教員を務めさせていただく以前、20代の頃から10年弱程度ですが県外の林業現場で働いてきました。当時の林業の現場は安全装備もまだ浸透しておらず、服装は作業着やニツカボツカが主流だった印象(20年近く前)です。新人が現場に入っても指導が出来る先輩は少なく「見て覚えろ」の日常でした。定期的に大きな怪我也も発生しており、日給月給で給料も安く危険な労働であることは肌で感じていました。これは

あくまで私の林業を経験した地域での話ですが、他県へ手伝いに行く事や逆に他県から現場の応援に来てもらう事もあったため、全国的とは言えませんが多くの地域の実情だったのではないのでしょうか。

● 変化の兆し

そんな林業の様子が少しずつ変化してきています。それは法整備の影響ももちろんありますが、それ以上に大きく感じているのは「緑の雇用」や「林業大学校」の存在です。今回はこれらの説明をするとそれだけで終わってしまうので、割愛しますが興味のある人は検索してみてください。

私自身も森林文化アカデミーで学生として学び、他県で緑の雇用による研修に参加させてもらった経緯があります。この中で感じたこれまでの林業の世界と大きな違いは【異分野交流】が生まれた事と【理論】で学べる機会が増えた点です。森林文化アカデミーでは現在も林業だけでなく森林環境教育・木造建築・木工と森林や木材に関連する学びを横断的に少人数で学ぶことが出来ます。中でも森と木のクリ

エーター科では社会人経験のある学生も多く、様々な経歴をもつ学生が入学することから森林や木材に関する新たな化学反応が生まれています。

また、緑の雇用でも職場の〇JT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)だけでなく集合研修が行われることで、様々な指導員から指導を受けることが出来、他事業体で同様の林業経験年数の仲間と交流することが出来ます。また田園回帰の流れもありインターン者の増加、別の業種から林業に転職する機会も大幅に増えたことでしょう。

林業だけの常識ではなく、様々な業界から林業に新しい視点や考え方が取り入れられてくることで、より安全に配慮した仕事の進め方や新たな技術の導入がかつての林業の印象を変えています。

● 森林サービス産業

さらに追い風となっているのは林野庁が2019年から進めている【森林サービス産業】です。簡潔に言えば「木材生産以外の収入を得ていきましよう」という事です。これからは「観光」「教育」「福祉」をも組み合

わせながら森林空間を活用していきましようという考え方です。岐阜県でも2023年に『ぎふ森のある暮らし推進協議会』を立ち上げ、異業種交流や勉強会の実施、更にはプランナーの派遣なども行い森林空間を活用したいと考える会員を支援しています。

一般的な林業において、ある程度成長した森林内では間伐をしてから次の伐採までは10年以上空きます。つまりはその森林から木材売上での収入を得ることが出来ません。ならばその空白の期間を利用して複合的な森林活用を考えてみてはいかがでしょうか。

これからの森林での働き方はアウトドア・狩猟・山菜・キノコ・木工・IT・アート・健康・教育などの組み合わせで森林や林業の有する課題を考え直すチャンスです。その地域や森林・従業員の有するポテンシャルを新たな視点で「価値化」しワクワクする森づくりを一緒に行いませんか？



林業では日常の光景かもしれませんが・・・